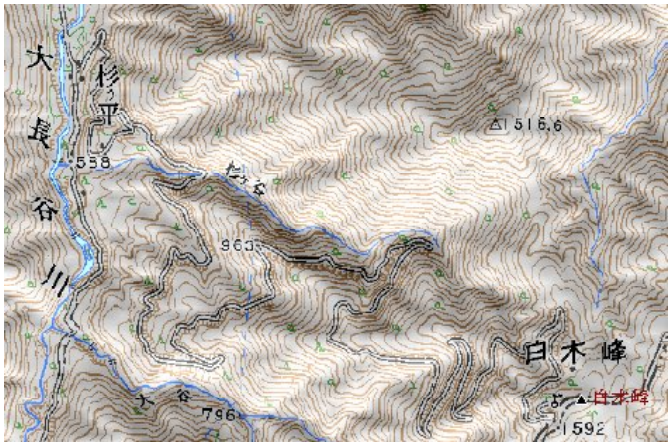
大長谷・白木峰

古生代へタイムスリップ　　－大長谷・白木峰－



国道４７１号線の越後谷を越えると、富山市八尾町大長谷地区に出ます。八尾から大長谷にかけて室牧川を上流方向に進むにつれて、新生代新第３紀の音川累層や東別所累層、黒瀬谷累層、岩稲層、楡原層、中生代の船津花崗岩類、古生代の飛騨変成岩類と古い時代の地層が現れてきます。

大長谷地区内の大長谷川の川原には、白っぽく見える船津花崗岩類や、灰色の飛騨変成岩類の岩が見られます。

杉平から白木峰への林道沿いの杉平キャンプ場辺りまで、中生代のジュラ紀にできた花崗閃緑岩が見られます。杉平キャンプ場を過ぎると、花崗岩質ミロナイトが現れます。ミロナイトは、断層帯で花崗岩が破砕されてできたものです。高熱の変成作用を受け再結晶する場合には、結晶の粒が大きくなることが多いのですが、この岩石では粒が小さくなっています。

キャンプ場を過ぎると、岩相は古生代の二畳紀ごろにできた飛騨変成岩類へと変化します。林道沿いには、角閃石片麻岩や輝石片麻岩、黒雲母片麻岩、石灰岩などが出てきます。頂上付近の駐車場から「自衛隊道路」を登っていくと、崩れてきた片麻岩や石灰岩を見ることができます。

<u>・いろいろな飛騨片麻岩類</u>

高山植物と高層湿原　－白木峰－

　白木峰は、標高が１６００m近くあるのに、頂上付近の駐車場から尾根沿いの登山道を登ると４０分程で頂上に着けます。登山道は踏み固められたために植物が生えなくなって表土が流失し、若干の段差ができています。尾瀬の旧東電歩道でも同じようまな表土の流失が起こりました。泥炭地に多く見られる現象です。　　この段差部分に見られる黒っぽい泥炭層は、気温が低いため分解しきれなかった植物が少しずつ残ってできたものです。

　クマザサやナナカマドの茂る登山道では、初夏にかけてイワカガミが群をなしてピンク色の花を付けます。また、一見低木のように見える木の中には、「白木峰」の名前の由来となった白木（しろき・・ブナ）もあります。ブナの純林は、杉平キャンプ場から５分ほど登った辺り（標高６００m程度）にありますが、こちらは高木です。環境（温度・土壌・風）の違いが樹高の違いの主な原因と考えられます。
　また、頂上付近では６月下旬頃からニッコウキスゲやコバイケソウ、イワイチョウなどの高山植物が花を咲かせます。

<u>高層湿原（池塘）</u>
　高層湿原として有名なのは、富山県内では弥陀ヶ原高原の「餓鬼の田」ですが、白木峰や金剛堂山でも見ることができます。地下水や川水が全く流れ込まないため栄養分に乏しい土地の窪み部分に、先ずミズゴケが繁茂し泥炭層を形づくりました。これが堤防の役割を果たし、周囲から流れ込む雨水を集めて池のようになりました。池の部分にスゲやホタルイが繁茂して現在のような高層湿原化していきました。白木峰山頂付近には「一の池」「二の池」「三段の池」「浮島の池」「消滅の池」などがあります。